

## ZANDEN Model 120 の展開(95) ーベーターヴェンを聴き直す(30)ー

### 1. 始めに

前報(94)に引き続き、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

また、TruPhase のヴォリュームに、ヴォリュームアキュライザーの導入(2)で報告したヴォリュームアキュライザーVRA-7 を適用しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベーターヴェンの交響曲第 9 番を選定しました。

日本コロムビア OC-7131-BS

交響曲第 9 番ニ短調作品 125 「合唱」

ウイヘルム・フルトヴェングラー指揮ウイーンフィル

DG SLGM 2

交響曲第 9 番ニ短調作品 125 「合唱」

エグモント序曲作品 84

レオノーレ序曲 3 番作品 72a

フェレンツ・フリッチャイ指揮ベルリンフィル

これらは、下記で聴いています。

## アナログ再構成後の活用(50)

## アナログ再構成後の活用(51)

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

フルトヴェングラー盤は、古いモノラルのライブ録音盤です。クレジットには RIAA との記載がありましたが、全般的に騒がしい感じがしますので、日本コロムビアレーベルの標準である、Columba、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。音質はよくありませんが、それでもフルトヴェングラーらしい、構成のがっちりとした力強いベートーヴェンであることが分ります。第 4 楽章のソリストの声も力強く生々しく前に張り出して聴くことができます。

フリッチャイ盤の「合唱」は、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

盤質はよくありませんが、これまでの印象と随分違い、ベルリンフィルの緻密で重厚な音が伝わってきます。夭逝したフリッチャイは録音当時の活躍が偲ばれるようで、ベルリンフィルから構成のしっかりした音楽を引き出しています。バリトンのフィッシャー・ディスカウ始め、ソリスト達の歌唱が前に張り出して艶やかに響き、合唱の奥行き感、広がり感も十分です。

エグモント序曲とレオノーレ序曲 3 番は、ここでも「合唱」同様、フリッチャイが、ベルリンフィルから緻密で構成のしっかりした表情を引き出し、劇場音楽の始まる前のわくわく感を感じさせてくれます。

### 4. まとめ

これまでの試聴同様、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入、さらに、VRA-7 の効果も加わって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

ベートーヴェン全集から手持ちの盤の聴き直しまで長丁場でしたが、アナログ再生系に手を加えてきた成果として、ベートーヴェンのジャンル別、年代別の音楽性の理解を深めることができました。

以上